

レジメン名	DBd
診療科名	血液・腫瘍内科
診療科責任者名	末永 孝生
適応がん種	再発または難治性の多発性骨髄腫
保険適応外の使用	□有 ■無

がん治療ワーキンググループ使用欄	
登録番号	MM-019
登録日・更新日	2017年11月28日登録・2023年4月25日更新
削除日	
出典	N Engl J Med. 2016 375:754-66 ダラザレックス適正使用ガイド
入力者	伊勢崎竜也

投与順に記入(抗がん剤のみ)

1-3サイクル						
	薬剤名	規格	投与量算出式	ルート	投与時間	施行日
No.1	ダラツムマブ・ボルヒアルロニ ダーゼ アルファ(遺伝子組換え) (ダラキユーロ配合皮下注)	1800mg/30000 単位	1800 mg/body 30000 単位/body	□IV □DIV □CVポート □側管 ■その他(皮下)	3~5 分	day1,8,15
No.2	ボルテゾミブ (ボルテゾミブ注射用) 生理食塩液	3mg 20mL	1.3mg/m ²	□IV □DIV □IVHポート □側管 ■その他(皮下)	1回/日	day1,4,8,11
No.3	デキサメタゾン (レナデックス錠)	4mg	40mg/body	□IV □DIV □IVHポート □側管 ■その他(経口)	1回/日	day1,4,8,11,15

4-8サイクル						
	薬剤名	規格	投与量算出式	ルート	投与時間	施行日
No.1	ダラツムマブ・ボルヒアルロニ ダーゼ アルファ(遺伝子組換え) (ダラキユーロ配合皮下注)	1800mg/30000 単位	1800 mg/body 30000 単位/body	□IV □DIV □CVポート □側管 ■その他(皮下)	3~5 分	day1
No.2	ボルテゾミブ (ボルテゾミブ注射用) 生理食塩液	3mg 20mL	1.3mg/m ²	□IV □DIV □IVHポート □側管 ■その他(皮下)	1回/日	day1,4,8,11
No.3	デキサメタゾン (レナデックス錠)	4mg	40mg/body	□IV □DIV □IVHポート □側管 ■その他(経口)	1回/日	day1,4,8,11

9サイクル以降						
	薬剤名	規格	投与量算出式	ルート	投与時間	施行日
No.1	ダラツムマブ・ボルヒアルロニ ダーゼ アルファ(遺伝子組換え) (ダラキユーロ配合皮下注)	1800mg/30000 単位	1800 mg/body 30000 単位/body	□IV □DIV □CVポート □側管 ■その他(皮下)	3~5 分	day1
No.2	デキサメタゾン (レナデックス錠)	4mg	20mg/body	□IV □DIV □IVHポート □側管 ■その他(経口)	1回/日	day1

1コースの期間	1-8コース目:21日 9コース目以降:28日
投与間隔の短縮規定	□短縮可能(日) ・ □短縮不可能
計算後の投与量上限値	110%
計算後の投与量下限値	50%

減量・中止基準	<p>【開始基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> 好中球数$\geq 1,000/mm^3$、血小板数$\geq 75,000/mm^3$、ヘモグロビン$\geq 7.5g/dL$ AST$\leq 82.5IU/L$、ALT$\leq 105IU/L$、総Bil$\leq 1.5mg/dL$、Cr$\geq 20mL/min$ <p>【減量基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> 血小板数$< 25,000/mm^3$、好中球数$< 500/mm^3$、皮膚障害: Grade3以上、その他のGrade3の非血液毒性回復するまで休薬する。回復後1段階減量して投与を再開できる。 <p>◆ボルテゾミブの用量調節</p> <ul style="list-style-type: none"> 1.3mg/m² 1段階目 1.0mg/m² 2段階目 0.7mg/m² 3段階目 中止 <p>【休薬基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> 血液毒性: Grade4、Grade3以上の非血液毒性 <p>【Infusion reaction】</p> <ul style="list-style-type: none"> Grade3のinfusion reaction(3回発現): 投与を中止すること。 Grade 4のinfusion reaction: 投与を中止すること。
前投薬	デキサメタゾン20mg+アセトアミノフェン500mg+ジフェンヒドラミン20~30mg(±モンテルカスト10mg: 1サイクル目 Day1)
その他の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> モンテルカスト10mgの投与についてはInfusion Reactionの呼吸症状が懸念される場合、投与を考慮すること。 慢性閉塞性肺疾患若しくは気管支喘息のある患者又はそれらの既往歴のある患者には、投与後処置として気管支拡張薬及び吸入ステロイド薬の投与を考慮すること。 带状疱疹の予防として、アシクロビル又はバラシクロビルおよび抗生剤(ST合剤等)を投与してもよい。 Infusion Reaction予防のデキサメタゾンは、総投与量に応じて減量可とする。

記入者	伊勢崎竜也
確認者	竹内正美